

3 平成24年度発掘調査公開状況(名和淀江・名和中山道路関係)について

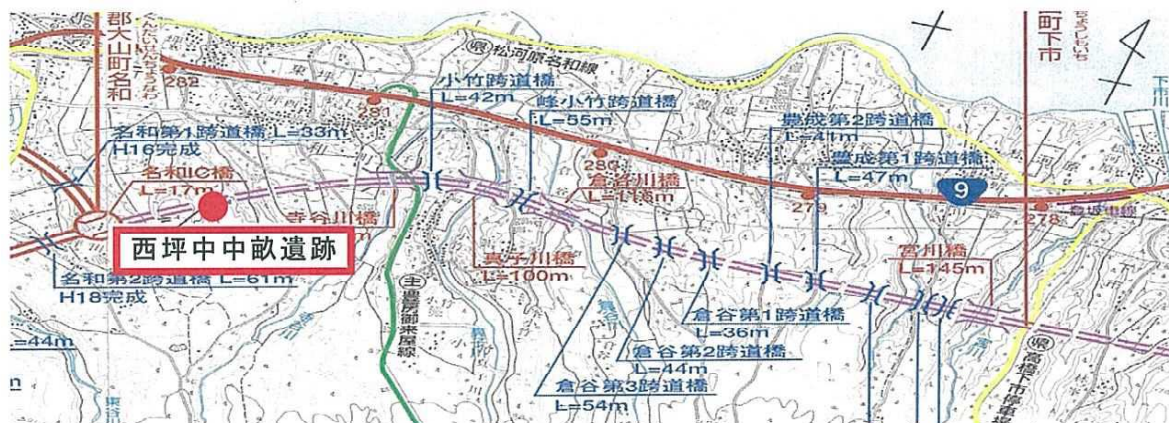
1 名和淀江道路関係遺跡位置図 西坪中中畝遺跡

(1) 遺跡の概要

- 縄文時代の落とし穴30基を検出し、当時の人々が狩猟場として何度も利用していたことが明らかとなった。
- 鍛冶炉との関連が考えられる奈良時代頃(約1,200~1,300年前)の掘立柱建物跡2棟などを検出した。

(2) 現地説明会

- 平成24年10月28日(日)に開催し、24名の参加があった。



2 名和中山道路関係遺跡位置図 赤坂小丸山遺跡

(1) 遺跡の概要

- 平安時代終わり頃の製鉄炉を確認した。平安時代以前の製鉄炉としては県内4例目。
- 炉に用いた粘土を採取した粘土採掘坑や作業用の道路跡なども見つかри、当時の製鉄場の具体的なようすを復元できる成果を得た。

(2) 現地説明会

- 平成24年11月4日(日)に現地説明会を実施し、63名の参加があった。



1 大山町「西坪中中畝遺跡」発掘調査の現地説明会を開催

鳥取県埋蔵文化財センター

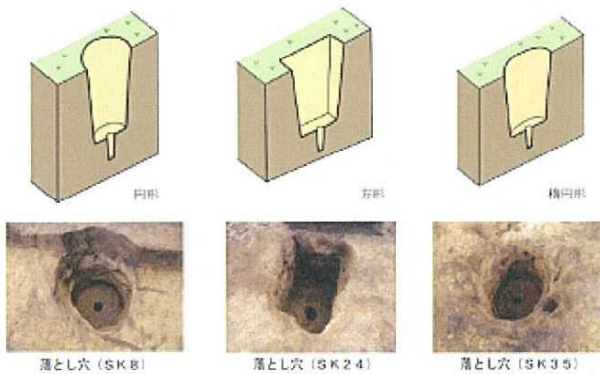
遺跡の概要

- 縄文時代の落とし穴30基を検出し、当時の人々が狩猟場として何度も利用していたことが明らかとなった。
- 鍛冶炉との関連が考えられる奈良時代頃（約1,200～1,300年前）の掘立柱建物跡2棟などを検出した。

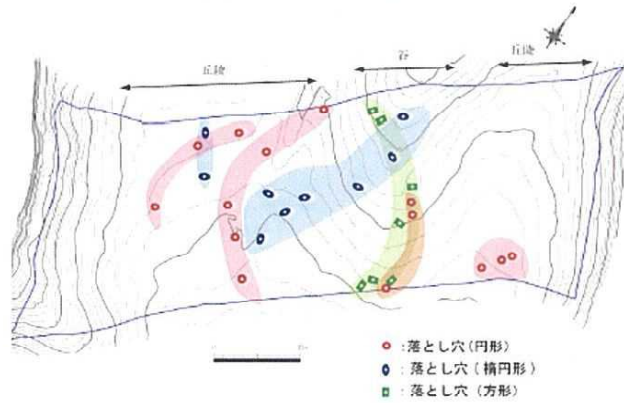
現地説明会

- 平成24年10月28日（日）に開催し、24名の参加があった。

1 落とし穴（縄文時代）



落とし穴の種類



落とし穴の分布



落とし穴の使い方（想像図）
（鳥取県埋蔵文化財センター『鳥取県の考古学』第1巻 旧石器・縄文時代より）



落とし穴の断面（SK6）

2 掘立柱建物跡（奈良時代）



8本の柱をもつ掘立柱建物跡

見つかった2棟の掘立柱建物跡の周囲からは、焼土や鉄滓、鍛冶作業時の破片（鍛造剥片等）が出土しました。このことから、鍛冶炉で鉄素材を鍛えて道具を作る鍛錬鍛冶（小鍛冶）が行われていたと考えられます。

あかさかこまるやまいせき
2 大山町「赤坂小丸山遺跡」発掘調査の現地説明会を開催

鳥取県埋蔵文化財センター

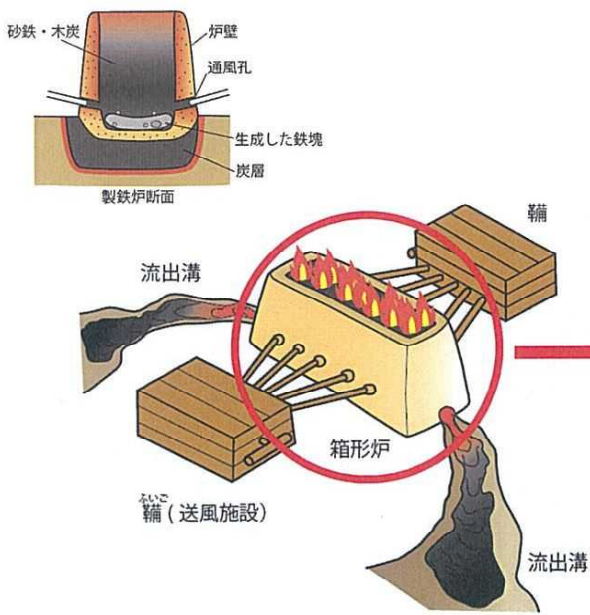
遺跡の概要

- 平安時代終わり頃の製鉄炉を確認した。平安時代以前の製鉄炉としては県内4例目。
- 炉に用いた粘土を採取した粘土採掘坑や作業用の道路跡なども見つかかり、当時の製鉄場の具体的なようすを復元できる成果を得た。

現地説明会

- 平成24年11月4日（日）に現地説明会を実施し、63名の参加があった。

1 製鉄炉



製鉄炉の模式図



見つかった箱形炉

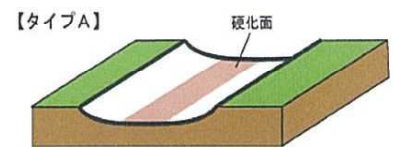
2 粘土採掘坑、作業道跡



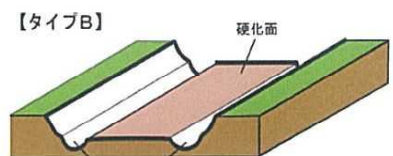
製鉄炉に使用する粘土を掘り出した採掘坑



製鉄炉に隣接して見つかった作業道跡



浅くほみ、幅が狭いもの



側溝をもち、幅が広いもの

見つかった2タイプの作業道

4 三徳山三佛寺において新たに確認された神像について

○ 三徳山三佛寺所蔵の仏像、神像について調査が行われ、その結果について三朝町が発表を行ったもの。

○ 調査により、以下の神像が国内最古のものであるという評価がなされた。

・ しょうぐんじぞうぼさつきばぞう 勝軍地蔵菩薩騎馬像 たいえい 大永3年（1523）銘

・ かっぺだいみょうじんきばぞう 勝手大明神騎馬像 てんぶん 天文10年（1541）銘

1 調査の趣旨 三朝町が実施している世界遺産登録推進を目的とした三徳山総合調査の一環として行われたもの。

2 調査実施日 平成24年9月4日（火）、5日（水）

3 記者発表 日時 平成24年9月22日（土）午後2時
場所 三徳山三佛寺本堂

4 調査者 まつうら まさあき 松浦 正昭 氏（奈良国立博物館名誉館員）
専門：仏教美術史

【三徳山における調査歴】

平成14年 ・重要文化財ざおうごんげんりゅうぞう蔵王権現立像のX線撮影によりたいたいもんじょ胎内文書等を確認

平成15年 ・中国・せつこうしょう浙江省にて重要文化財おうむもんどうきょう鸚鵡文銅鏡の調査
・蔵王権現立像の学術調査
・本堂秘仏・阿弥陀如来立像の修復に関する助言、指導

5 調査結果

(1) 調査概要

地蔵堂、文殊堂等に祀られていた地蔵菩薩坐像、男神坐像（写真①）、

そうぎょう僧形坐像（写真②）、狛犬など

15体（右写真含む）の詳細調査を実施。



写真① 男神坐像
天文10年（1541）銘



写真② 行明律師坐像
応永33年（1426）銘

(2) 新たに判明した内容

勝軍地蔵菩薩しょうぐんじぞうぼさつと勝手大明神かってだいみょうじんは蔵王権現くらわんけん（三佛寺奥の院〔投入堂〕の本尊）につき従う神で、それぞれ地蔵堂と文殊堂に安置されていた可能性がある。三佛寺所蔵のものはいずれも紀年銘をもち、その銘から現存するものとして最古であると評価された。

①勝軍地蔵菩薩騎馬像しょうぐんじぞうぼさつきばぞう（別名：子守権現甲冑騎馬像こもりごんげんかっちゅうきばぞう）

勝軍地蔵とは戦勝をもたらす地蔵尊として武家の尊崇を集めたもので、騎馬甲冑姿として彫刻と絵画で表現される。概ね室町時代からその信仰が広まったが、資料として中世に遡る例は少なく、現在残っている多くは、防火の神として庶民の間で信仰を集めた近世以降のもので占められている。

本例は白馬像に「大永たいえい3年（1523）、京仏師法眼定泉ほうがんじょうせん作。願主は榮海えいかい」という銘があり、勝軍地蔵菩薩像の騎馬像とすると彫刻・絵画を合わせ最古に位置づけられる。

②勝手大明神騎馬像かってだいみょうじんきばぞう

山岳修験信仰における神のひとつ。

烏帽子・広袖衣ひろそでごろもを着け馬にまたがる勝手大明神像。

「天文10年（1541）、大仏師そつ 帥」銘がある。同像については曼荼羅など諸尊集合図の中に描かれることはあっても、単独の絵画・彫刻は知られておらず、単独の勝手大明神像としては彫刻・絵画を合わせ最古の作。



①勝軍地蔵菩薩騎馬像
（騎馬像高：約100cm）



②勝手大明神騎馬像
（騎馬像高：約100cm）